

## 楠本イネ ～～日本で初めて西洋医学を学んだ女性の功績～～

1827年(文政10年)	5月6日 長崎で誕生、父・ドイツ人医師シーボルト、母・楠本たき 5歳から寺子屋に通い、勉強好きであった
1845年(弘化2年)	17歳、卯之町(愛媛県)のシーボルトの弟子・二宮敬作のもとで医学全般を学び、半年後に、岡山の医師のもとで産科学を学ぶ
1852年(嘉永5年)	娘を出産、長崎に戻り、蘭医に師事して医術修行を行う
1854年(嘉永7年)	娘を母に預けて、再び卯之町に向かう
1855年(安政2年)	宇和島(愛媛県)で、医学・蘭学を学ぶ
1856年(安政3年)	長崎に戻り、銅座跡で二宮敬作とともに医院を開業
1859年(安政6年)	長崎医学伝習所の医師ポンペによる解剖実習に参加し、ポンペの外科手術の助手を務め、解剖学・医学基礎を学ぶ。後任の医師2人にも学び、研鑽を積む。
1864年(元治元年)	3月宇和島へ行き、伊達藩の御殿医として迎えられ、城下での医院開業の許可を得る
1866年(慶應2年)	長崎に戻る
1867年(慶應3年)	宇和島・伊達藩主に呼ばれて、藩主の妻の出産に立ち会う
1869年(明治2年)	神戸でポルトガル領事に依頼された産婦のため、長崎に戻り出産に立ち会う
1870年(明治3年)	東京築地で産院を開業する
1873年(明治6年)	宮内省から明治天皇第一子の出産御用掛を命じられ出産に立ち会う
1876年(明治9年)	産院を閉院、長崎に戻り、産婆(現在の助産師)となる
1884年(明治17年)	産婆免許を得て、産院を開業する
【同年	荻野吟子が女性で初めて医術国家試験に合格】
1889年(明治22年)	東京麻布へ転居
1903年(明治36年)	76歳で逝去

参考:講師 宇神幸男氏の講演資料

および著書「幕末の女医 楠本イネ シーボルトの娘と家族の肖像」